

新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

第二十二話

「氷川遺跡の貝殻文土器について」

(要約文)

氷川神社の場所は、大昔から人が住んでいた「氷川遺跡」として埋蔵文化財に登録されています。

太平洋を望む標高44メートルほどの舌状台地に立地し、この台地にはかつて壕(ごう)：地面を掘りこんだ部分)があり、アイヌの人々の砦跡(チャシ)ではないかとも考えられています。この遺跡からは、縄文時代中期の円筒土器文化や晩期の亀ヶ岡文化の遺物が多数出土していますが、それより古い時代にあたる「貝殻文土器」も出土しています。

氷川遺跡から出土した貝殻文土器は、貝殻の腹縁を器面に垂直に当てて押し付けた文様があります。粘土にはほとんど小石を含まず、焼き方は良好で、内面に「条痕文」という貝殻の背でなでた痕も見られます。

縄文時代は約1万年もの長い間続きましたので、始まりと終わり頃では大きな文化の違いがあります。そのため一般的に6期区分(草創・早・前・中・後・晩期)を採用して比較するように

しています。貝殻文土器は、縄文時代早期(約9千〜7千年前頃)に相当します。

縄文時代の前半になると気温も温暖となり、漁労への依存も多くなってきたために貝殻を模様とした土器も作られるようになったのではないかと考えられます。またこの時期に、石刃鏃(せきじんぞく)と呼ばれる細長い剥片の縁を簡単に打欠いただけの石器が道東を中心に分布していますが、日高地方全域でも発見されるようになりました。しかし、これに伴う土器の出土が少ないので、縄文時代早期の様子を研究する上で今後の課題といえます。

皆さんも道端や畑の付近で偶然に土器や石器を見つけたこともあるかと思いますが、一片の土器でもよく観察し、大切にしてほしいと思います。



氷川遺跡から出土した「貝殻文土器」の拓本

大切な「日常」のために私たちができること。

消防団員募集

あなたの想いで、守れる町がある。
あなたの想いで、救える命がある。
あなたの想いで、深まる絆がある。 消防署新冠支署

火災・救急出動状況 () かつこ内は前年同期

区分	火災件数	救急件数
3月	0件 (0件)	17件 (29件)
2年1~3月	0件 (2件)	63件 (88件)

交通事故発生状況 () かつこ内は前年同期

区分	発生件数	死者	傷者
3月	0件 (0件)	0人 (0人)	0人 (0人)
2年1~3月	1件 (0件)	0人 (0人)	1人 (0人)

人のうごき

(令和2年3月末現在)

人口	5,417人	(前月比 - 72人)
男	2,650人	(前月比 - 37人)
女	2,767人	(前月比 - 35人)
世帯	2,762世帯	(前月比 - 11世帯)